

KITA国際親善

長年に亘り、KITA国際親善プログラムにおいて、海外からの研修員にボランティアで茶道のご指導をして頂き、研修員の日本文化体験に大いに貢献してくださっている茶道裏千家教授の伊達 宗雅さんにインタビューしましたのでご紹介します。



(公財)北九州国際技術協力協会 事務局

2014年5月30日

茶道裏千家 教授：伊達 宗雅さん

【インタビュー】

(聞き手:KITA事務局 事務課長 豊田 めぐみ)

◆初めてKITA研修員に茶道ご指導をされたのはいつ頃ですか？

・二十八年前頃でしたでしょうか、当時は、北九州青年会議所が交流会を担当されており、文化印刷さん、クランパンさん、つじりさん等、社長様方のご自宅の茶室でお茶を差し上げ、日本文化の紹介デモンストレーション、そして お庭でガーデンパーティをアットホームな中で開催していたように記憶しています。その頃の和気藹藹とした楽しい思い出が胸をよぎります。

◆KITA研修員に茶道をご指導されるようになったのはどういうきっかけだったのでしょうか？

・私は、北九州青年会議所の方のご縁で気軽にお茶を一服差し上げる気持ちで参りました。高校生の頃、自宅で両親がホームステイの外国人の受け入れをしておりましたので、生活を共にいたしました経験から、日本文化にとっても興味を持たれ、茶道の稽古をしていた私に楽しそうにいろいろと尋ねられていたことが思い出され、それで、日本文化のご紹介の場としての一役を担えますことを光栄に思いました。

また、修道しております茶道裏千家の御家元の度重なる御講話の中で、スローガンとして、『一碗からピースフルネスを』を掲げられ、共に一碗のお茶を頂戴することで心開かれていくことを望まれ、世界の平和への懸け橋に、ひいては、日本文化のかけ橋となれるよう修道者としての心構えを示されたことに感銘を受けまして、私でも何かお役に立てることがあるのだろうかと考えました。そして、お茶友皆様へお声掛けし、賛同、協力を得て今日まで続けて来ることができました。ボランティアメンバーが楽しみに参集できる会であることもこの上なく幸福感を感じられるものです。1人では何もできませんが、助け合う仲間と共に築く時間を共有することによって友情の絆は深まります。

とは言いましても、当時は先輩の方々ばかりで、反対に長い間可愛がられてきたように思っております。スタッフの皆様におかれましては、年若い私に内心ご心配があったのではないのでしょうか。にもかかわらず、ご親切に接していただき、毎回研修内容の改善と工夫に取り組んで参りました。そのおかげで、研修員の皆様の最も興味深いことを模索したり、判りやすくご紹介するために日本の床のご説明や掛物、季節のお花を通して思いをお伝えし、茶道具や御召し物で季節感を表現してゆく努力を共に進めてまいりました。



裏千家淡交会ボランティアの皆様並びに研修員
(前列右から2番目が伊達さん)

◆茶道指導を始められたばかりの頃の研修員と最近の研修員とでは何か違いのようなものは感じられますか？

・当時は 1グループ10名から15名に分け、2交代でお茶席をいたしました。少人数であることから、お点前終了後には細やかな質問が投げかけられました。抹茶のできるまで、お炭の材料や製法、灰の保管や始末、そして漆器や陶器、必ず着物や帯のことにまで至りました。お茶席はサロン文化でもありますので お茶会の後の会話も大切な時間としておりました。その後、段々と研修員の数も増え、コースの関係上、20名から30名、多い時は40名となり、なんとなく1対1のお茶の空気は薄らぎましたが、当時はホストファミリーとして受け入れもしておりましたので、自宅でゆっくりと続きのお茶をご紹介させていただいておりました。現在も日本のことをとても興味を持って来日されている方も多いように感じますが、お時間の都合などで日本文化に触れる機会が少なくなっているのではないのでしょうか。

◆海外からの研修員に日本文化の代表である茶道を指導されるに当たり、特に気をつけておられることがあれば教えてください。

・一期一会(注1)の境地を特に噛み締めております。研修員の皆様におかれましては慣れない異国へみえての『西日本工業倶楽部の夕べ』での一盃が思い出深い一服になりますよう念じてやみません。そして、束の間の心和むお時間となってくださればと思っております。お席全体のバランス、季節時候、大きなニュースなど、その日につながる思いを限りあるお道具の中で取り合わせをしております。茶の文化は 日本の風土によって確立されたものと聞いておりますので、そのことを大切にお伝えしたいと思っております。和敬清寂の意味と心構えを私ども亭主側も毎回実践するよう心掛け、接しさせていただく学びの場とさせていただいてもおります。終了後は遅くなくても必ず意見交換会をいたします。

- ・季節によって、参加数によっての対応は都度つど事務局の方へお尋ねいたします。そのことが事務局と担当者レベルで意識も繋がり、研修員の方により良いひと時を提供できるのではないかと考えております。

(注1)「一期一会(いちごいちえ)」

一期は一生、一会はただ一度の出会いです。お茶席で、たとえ何度同じ会するとしても、今日の茶会はただ一度限りの茶会であるから、亭主も客ともに思いやりをもって取り組むべきと教えています。

◆海外からの研修員に茶道指導することについて何かご苦労はありますか？

- ・特に苦労はございません。反対に文化の違いを学ばせていただいております。私どもでもこのような形で関与させていただけることに感謝いたしております。

◆茶道を通じて日本文化のどういった良さを伝えたいと思っておられますか？

- ・一座建立^(注2)です。お茶席にかかわらず、研修員の受け入れには、国同士の手立てであるとはいえ、其処に携わっておられますのは全てお人方です。出国前からの準備時点から受け入れる側のそれぞれの方々がこのような気持ちで接することで、KITAの組織も成り立ち、また、研修員も喜ばれ、自国に帰られてからも各々お国のためにその智慧をお使いになるのだと思っています。お茶にとどまらずこの会に関与される関係皆様の気持ちと同じなのだということをお伝えすることだと思っています。美術的な美しさや鑑賞は美術館でもできるかもしれませんが、気持ちというものは、生身のお人同士でなければなかなか伝わりにくいのではないかと考えております。

(注2)「一座建立(いちざこんりゅう)」

お客さまには、できる限りのことをしてあげようと創意工夫します。難しく奥の深いことですが、これにより招いた者(亭主)と招かれた客の心が通い合い、気持ちのよい状態が生まれます。このことを「一座建立」といい、茶道ではとても大切にします。

◆研修員から言われて嬉しかった言葉や思い出に残った言葉はありますか？

・沢山ありますが、特に、次のようなことでしょうか。

①お茶がおいしかったです。ありがとうございました。おかわりもらえますか。

②お菓子おいしかったです。綺麗ですね。

③初めてのお茶でした。

④機械化の中にあって、お茶道具が全て職人さんの手でできていることやその材料に感動しました。

⑤炭を実際に使うことが見られて良かったです。

◆今後、茶道を通じての国際交流について取り組みたいこと、あるいは、今後の目標などがあれば教えてください。

・KITA組織の皆様の端役になれますことが研修員の皆様へ、そして、世界へつながっているとと思っています。大げさなことは何もできませんが、何らかの形で研修員の皆様には日本文化の懸け橋に、日本人スタッフの皆様には研修員との交流の場で日本の良さを再確認、発見していただける機会となれば良いなと思っています。幸い茶道には一通りの日本文化が圧縮され受け継がれております。広く浅く垣間見ていただくには丁度良い文化ではないかと思っています。

- ◆最後に、研修員に何かメッセージ(期待すること等)があれば教えてください。
- 一服のお茶のご縁でこのように長い時間続けて来られましたことを心から感謝申し上げます。知らず知らずのうちに積み重ねられた経験が多くの学びを頂戴しておりました。日本文化の継承者たちの思いのこもった一盃を服していただきありがとうございます。『TEA CEREMONY』や『MACCHA』という言葉が日本の思い出にして下さり、帰国後もときどきは思い出してくださいましたら十分に幸せでございます。



呈茶体験風景

お尋ねする質問に対して、一つ一つ非常に丁寧に答え頂き、伊達さんの何事にも真摯な姿勢が窺えるインタビューでした。伊達さん、貴重なお時間をありがとうございました。これからも末永く海外からの研修員の日本文化体験にご協力の程お願い致します。